

## 平成29年度 奈良市の地域教育を考える懇話会の意見の概要

開催日時	平成 29年 9月4日(月) 13時30分から15時まで
開催場所	はぐくみセンター 8階 中講座室
意見等を求める内容等	奈良市地域教育推進事業について
参加者	出席者 9人 ・ 事務局 12人
開催形態	公開 (傍聴人 0人)
担当課	学校教育部 地域教育課

### 意見の概要

事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。

《意見の概要》

#### 奈良市地域教育推進事業について

##### ▶次世代コーディネーター・ボランティアの育成について

次世代の地域コーディネーター及びボランティア人材育成が重要である。

##### ▶情報公開について

行政も地域の各種団体も縦割りではなく、横につながっていくことが重要である。自治会等の地域に協力を求めていくためにも、多額の予算がどう使われているのかを理解していただけるよう説明していく必要がある。

##### ▶学校関係者からみた地域の方の様子について

登下校の立所に多くの方に関わってもらっているが、現在70代の方が多く、60代の方は働いておられるので、今後どのように声かけをしていくかが課題である。一方、図書ボランティアの活動が活発で、特にPTA役員と地域の方の関わりが安定してきた。

##### ▶これまでの10年について

- ・奈良市は、平成20年度より学校支援地域本部事業を全中学校区でスタートさせた。その後、平成23年度より市の独自予算を計上して、奈良市として独自に確立、継続していることは、全国1700ほどある市町村の中でもほとんど例をみない。そこには関わる方々の熱意があった。
- ・当初は、学校側に遠慮があり、子どもの見守りや環境整備などの門の外側での連携があったが、少しずつ総合的な学習の時間などにコーディネーターの関わりが増えるなど、門が広がってきた。
- ・それぞれの校区には特色があり、交流の集いなどを通して互いに学びあうことで進化してきた。
- ・園児から中学生までの11年間で様々な体験や学びをした子どもたちが、大人になった時に本事業の成果が現れると思う。
- ・図書室の環境整備からスタートした図書支援活動は、次第に中学生が活用するようになり、今では昼休みに図書室を開放するなど、図書委員の生徒と地域人材が共同活動している。小さなことの継続が重要である。生徒も地域と学校の関係性を理解してきたように感じる。

- ・園内の環境整備や絵本の読み聞かせなどを地域の方に続けていただいている。園児たちも地域の方と関わることで、思考力、コミュニケーション能力が育ってきた。また、保護者の方にとっても、地域の方が常に見守っていただいているという安心感につながっている。
- ・これまでの10年、公民館と地域教育協議会との協働関係ができていると感じる一方で、10年が経過してもまだ地域教育協議会に入れていない公民館もあり、全中学校区で関わっていないのが現状である。「めざす子ども像」を各公民館も共有しながら、同じ目標をもって子どもたちに関わってきたい。

▶これからの10年にむけて

- ・2020年から実施される新学習指導要領に向けて、授業の質が変わってくる。今までの教科による知識・技能に加えて、子どもたちが社会と繋がらなければ伸びない「生きる力」を付けていくために、学校がどんな支援を必要とし、どんな子どもを育てていくのかを、学校と地域が共に考え直す時期に入っていく。  
奈良市はこれまでの10年を土台にし、さらに2020年に向けて、一步踏み出していくことが重要である。
- ・10年が経ち、次にどこを目指していくのかをそれぞれの地域で考えていくことが大事である。  
この事業も、段階を踏んでいって成長していくというところを見据えなければならない時期にきている。

▶地域で決める学校予算事業の「めざす子ども像」について

- ・「生きる力」は多岐にわたる。教科の単元だけでは達成できない、社会と繋がらなければ伸びない力を地域で補う必要がある。
- ・現在、各協議会が計画書等で報告している「めざす子ども像」は抽象的。スローガンとしてはいいが、それぞれの学年に合わせて考えていただくスタートラインである。例えば、めざす子ども像が“地域で学んだことを誇れる”であった場合、1年生“楽しむ”、2年生“知る”、3年生“理解できる”、4年生“手伝える”など段々と積みあがり、さらに“一緒に行動する”“つなぐ”“新しいことへ発展する”など、最後に中学3年生が“楽しかった”だけではなく、“多くのことを学ばせてもらった”というようなことを認識できるような「設計」の見直しをすればもっと良くなる。